

世界の基幹産業を支えて75年
富士ダイス株式会社

2025年3月期 決算 補足説明資料



1. 2025年3月期 業績概要	P.02
2. 「中期経営計画2026」 初年度進捗と 2026年3月期の重点施策の取り組み	P.03
3. 成長分野に向けた製品開発の取り組み	P.18
4. 2026年3月期 業績予想	P.26
5. APPENDIX	P.35

01

2025年3月期 業績概要

2025年3月期 連結業績総括

連結売上高 16,595百万円 (前年同期比-0.5%)

連結営業利益 488百万円 (前年同期比-39.7%)

- 売上高は、自動車部品関連金型の回復遅れ等に伴う売上高の減少により微減
- 原材料の高騰、IT投資や人財投資の拡充により減益

売上高	増加要因	■ 製缶金型や車載用電池向け金型の販売が堅調 ■ 半導体製造装置向けの需要が堅調 ■ 超硬素材の販売が好調
	減少要因	■ 海外向け溝付きロールの顧客での在庫調整に伴う需要減 ■ 混錬工具（半導体向け）等の販売が低調
利益	増加要因	■ 生産性向上・業務効率化の施策に一定の成果
	減少要因	■ 原材料の高騰 ■ IT投資や人財投資の拡充

2025年3月期 連結業績サマリー

- 売上高は前年同期比で微減、予想比で減少
- 各段階利益は前年同期比、予想比で減少

(単位：百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	前期増減率	2025年3月期 業績予想※	業績予想 進捗率
売上高	16,678	16,595	-0.5%	17,000	97.6%
営業利益	809	488	-39.7%	680	71.8%
(営業利益率)	(4.9%)	(2.9%)	(-39.4%)		
経常利益	882	603	-31.6%	850	71.0%
(経常利益率)	(5.3%)	(3.6%)	(-31.3%)		
親会社株主に帰属する 当期純利益	709	426	-39.9%	590	72.2%
(当期純利益率)	(4.3%)	(2.6%)	(-39.6%)		
1株当たり 当期純利益	35.72円	21.42円	-40.0%	29.68円	-
自己資本比率	79.0%	81.0%	-		

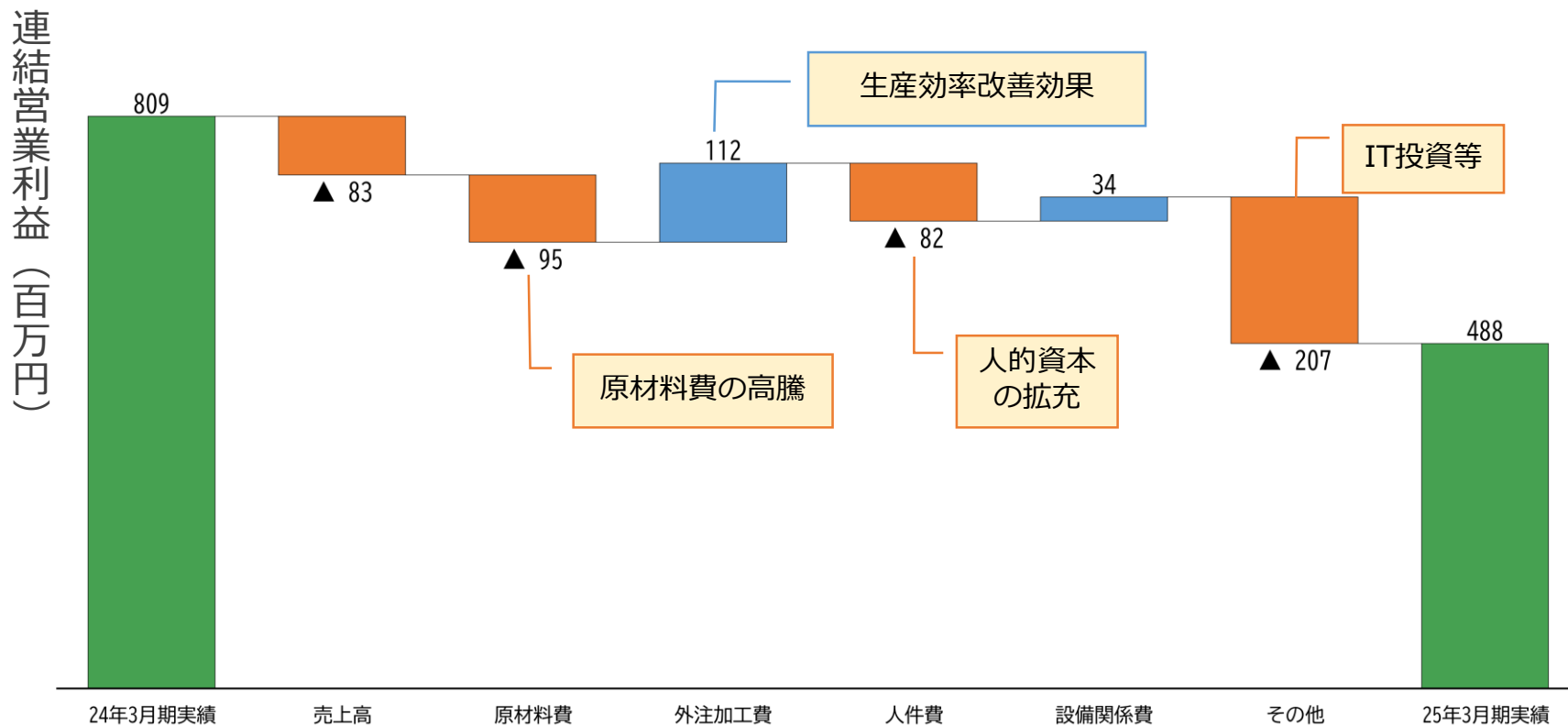
※2024年11月14日に開示した通期の業績予想数値

(百万円未満 切り捨て)

2025年3月期 連結営業利益 増減要因（前年同期比）

営業利益

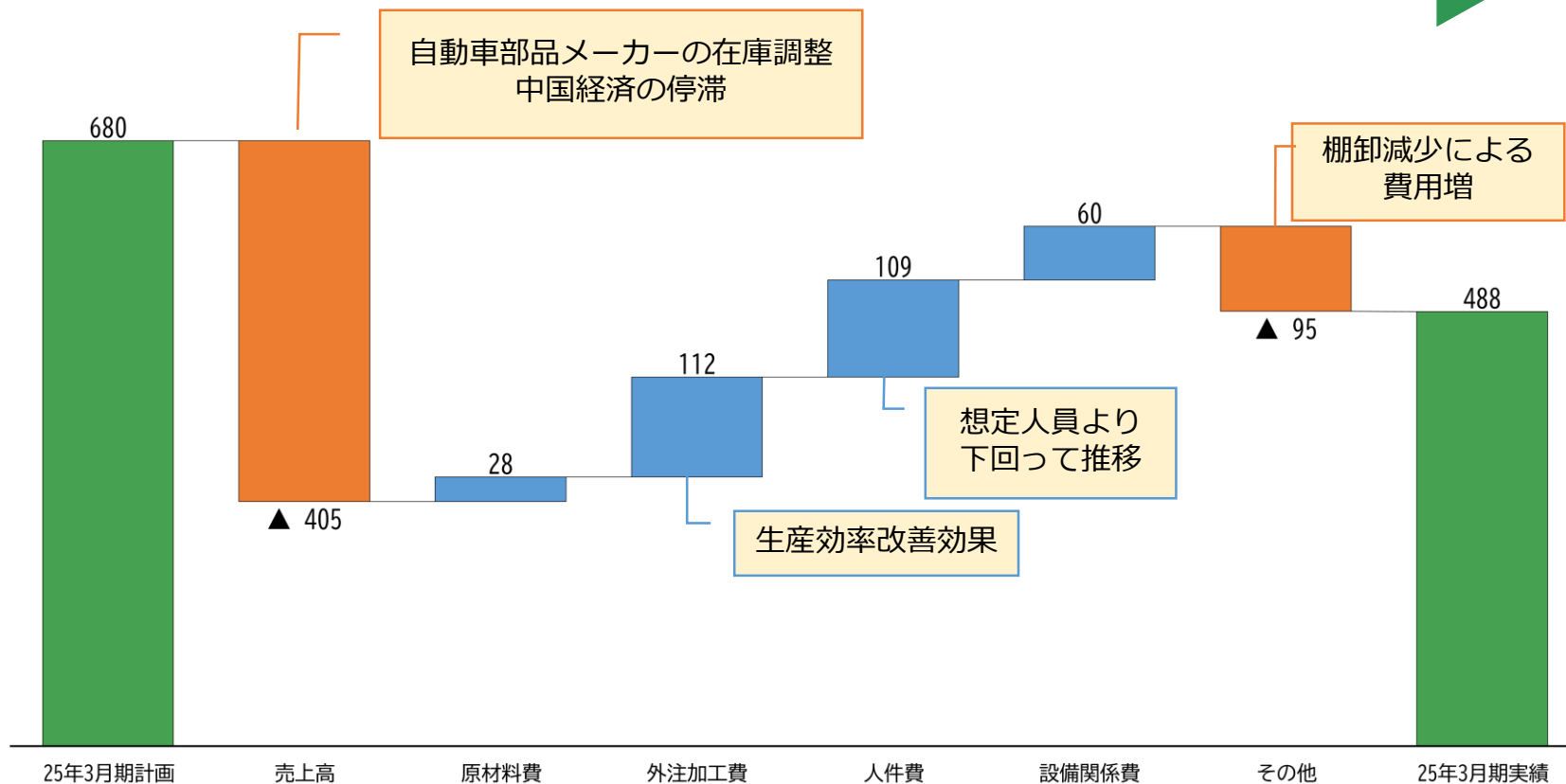
生産性向上・業務効率化の施策に一定の効果はあったものの、
原材料の高騰、IT投資や人財投資の拡充により減益



2025年3月期 連結営業利益 増減要因（予想比）

営業利益：予想比▲191百万円

連結営業利益
(百万円)



【2025年3月期 利益予想の前提条件】

- ① APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：310ドル/10kg
- ② 為替：150円/米ドル

【2025年3月期 実績】

- ① APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：336ドル/10kg
- ② 為替：150.58円/米ドル（2024年平均）

(単位：百万円/百万円未満 切り捨て)

2025年3月期 財務の状況 連結貸借対照表 増減分析

- 電子記録債権が381百万円減少、売掛金が151百万円減少したことに等により、流動資産は115百万円減少
- 建物及び構築物が278百万円減少、機械装置及び運搬具（純額）が106百万円減少したことににより固定資産は419百万円減少

財務状況

2025年3月末 ※（ ）は2024年3月末との差

資産	負債
25,603百万円	4,855百万円
(-534百万円)	(-635百万円)
	純資産
	20,748百万円
	(100百万円)

単位：百万円	2024年3月末	2025年3月末
流動資産	15,024	14,909
固定資産	11,114	10,694
資産合計	26,138	25,603
流動負債	3,871	3,395
固定負債	1,619	1,460
負債合計	5,491	4,855
純資産合計	20,647	20,748

負債・純資産・自己資本比率

2024年3月末	2025年3月末
5,491百万円	4,855百万円
79.0%	81.0%
20,647百万円	20,748百万円

純資産	負債	自己資本比率
現金及び預金	6,945百万円	
原材料及び貯蔵品	1,299百万円	
建物及び構築物（純額）	4,733百万円	
機械装置及び運搬具（純額）	2,104百万円	
短期借入金	28百万円	
長期借入金	-百万円	
退職給付に係る負債	1,425百万円	
利益剰余金	19,686百万円	
その他包括利益累計額	955百万円	

（百万円未満 切り捨て、自己資本比率は小数点第2位を四捨五入）

2025年3月期 キャッシュ・フロー計算書

営業CF：税金等調整前当期純利益（603百万円）・減価償却費（1,011百万円）
投資CF：有形固定資産の取得（620百万円）
財務CF：配当金の支払い（634百万円）

(単位：百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減
営業活動によるCF	2,050	1,800	-250
投資活動によるCF	-1,656	-849	807
フリーCF	394	951	557
財務活動によるCF	-651	-659	-8

(百万円未満 切り捨て)

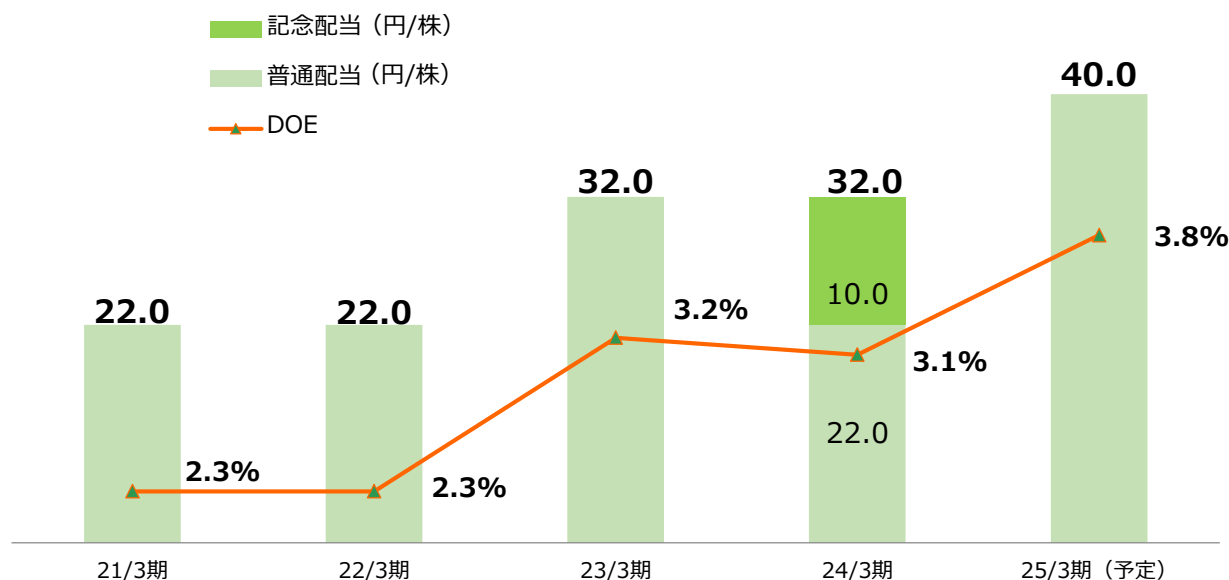
2025年3月期 株主還元・配当

2025年3月期は1株当たり40円

【2024年3月期の1株当たり32円に対して、8円増配】

年間配当金
40円

- 2027年3月期までの中期経営計画期間中は、配当の基準を従来の配当性向から株主資本配当率（DOE）に変更するとともにDOEの目標値を4%目途に変更
- 2025年3月期の配当は財政状態等を勘案し、期初の予定どおり前期の1株当たり32円に対して8円、普通配当では18円増配の40円を予定



※2025年3月期末配当は、当社第69回定時株主総会の承認を得た場合の1株当たりの配当金となります。

02

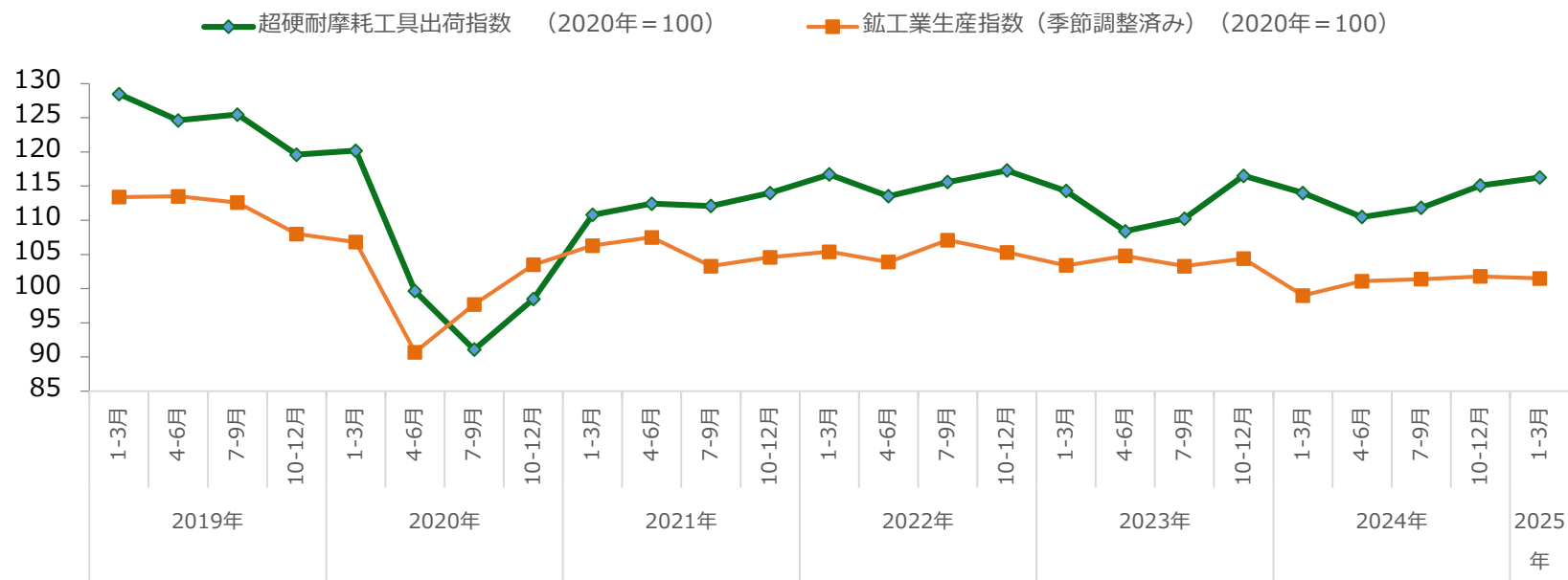
「中期経営計画2026」初年度進捗と
2026年3月期の重点施策の取り組み

2025年3月期までの事業環境

鉨工業生産指数と超硬耐摩耗工具出荷

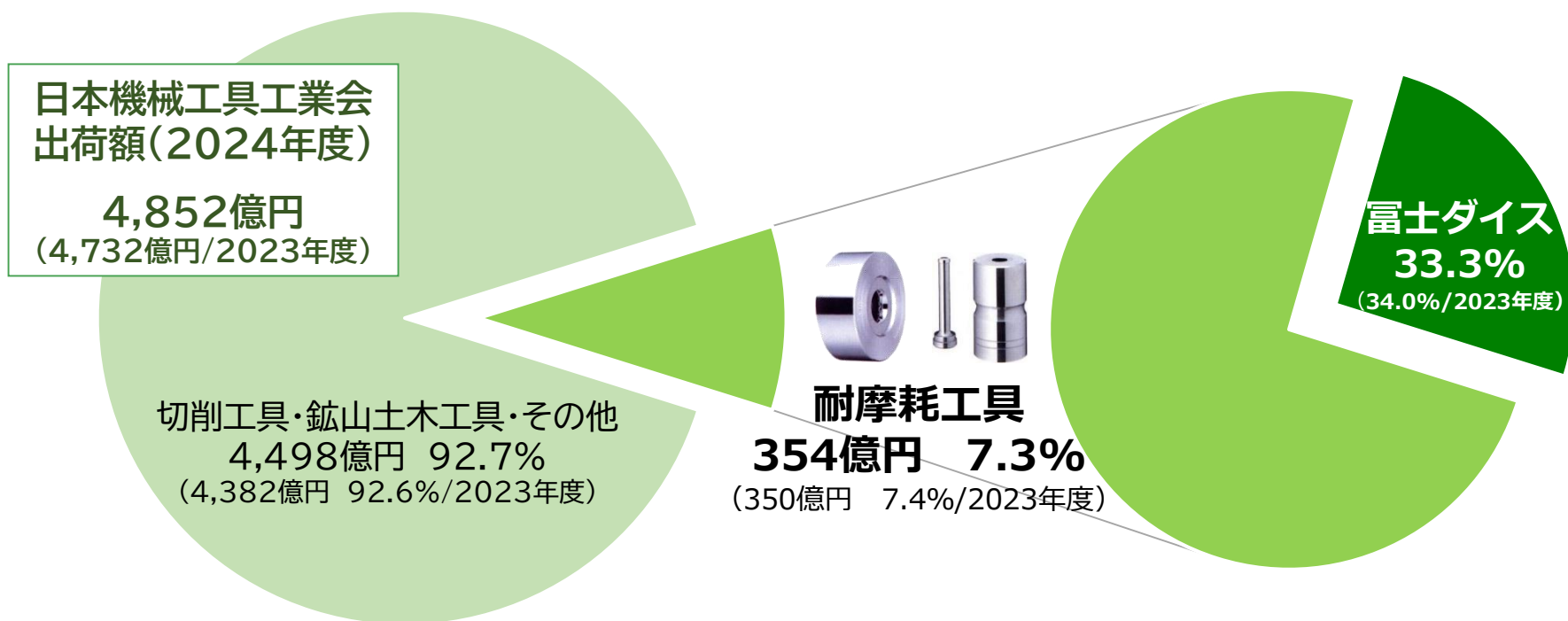
両指数ともにコロナ禍前の水準には戻っていない

鉨工業生産と超硬耐摩耗工具出荷 指数推移



出所：日本機械工具工業会 『超硬工具統計』
経済産業省 『鉨工業指数』

超硬工具の国内市場規模（日本機械工具工業会調べ）



耐摩耗工具において、長年に亘ってトップシェアを堅持
当社の超硬工具の売上 117億円 (119億円/2023年度)

2024年度の国内の耐摩耗工具市場の出荷額は前年比 1 %増の354億円
2022年度の360億円には届かず、今後も大幅拡大は期待薄

中期経営計画2026（2025年3月期-2027年3月期）：重要施策

変化に対応できる企業体質への転換

①経営基盤の強化

サステナビリティ経営とDX化を軸に組織力を高め、経営判断を迅速化

②生産性向上・業務効率化

各部門における自動化・省力化、DX化等による業務効率化を推進

③海外事業の飛躍

海外子会社と日本からの直接輸出の両輪で海外売上拡大を図る
アジア地域でのシェア拡大に加え、北米/インドにおける市場開拓を促進

④脱炭素・循環型社会への貢献

脱炭素・循環型社会の形成に貢献する製品を積極的に開発・市場投入

⑤新規事業の確立

100年企業を目指し、新規事業の専門組織を立ち上げ、新事業シーズの事業化を加速

既存事業領域

新規事業領域

利益率向上

売上拡大

国内事業は成長の基盤（安定的に成長）、成長を牽引するのは海外事業
将来の成長基盤の育成として新事業の実現という方向性

重要施策の初年度進捗と 2026年3月期以降の取り組み

① 経営基盤の強化

初年度（2025年3月期）の進捗

- データ化の推進の取り組みとして、基幹システムを刷新
- 2025年1月1日付で品質保証本部を新設
- 社員エンゲージメントの向上を目的に、新たな福利厚生を導入
- ブランディングプロジェクトを始動、コーポレートサイトを全面リニューアル
- 初のサステナビリティレポートを発行

2026年3月期以降の取り組み

ガバナンスの強化

- 監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行（2025年6月24日）

データ化の推進

- ワークフローシステムの導入、情報セキュリティシステムの強化

コーポレートブランディング

- ブランディングプロジェクトの推進

人的資本投資の強化

- 研修体系の拡充

 **さらなるデータ化・ペーパーレスの推進、意思決定の迅速化を図る**

重要施策の初年度進捗と 2026年3月期以降の取り組み 生産性向上・業務効率化

初年度（2025年3月期）の進捗

郡山製造所

- 研削加工作業に自動化ロボットを導入・本格稼働、産出量が10%向上
- 冶金工程の自動化ロボットが対応できる製品の範囲を広げる改修を実施

熊本製造所

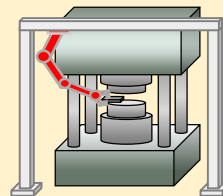
- 冶金工程にCAD・CAMを駆使したNC加工機による自動加工ラインを導入、自動加工に約60%を移管
- 部品どりを最適化するCAD・CAMの自動ネスティングの2025年度導入に向けたテストを実施

2026年3月期以降の自動化導入計画

自動化推進に1億6000万円投資、効果測定結果を踏まえてさらなる投資も予定

郡山製造所

- 冶金工程の粉末成形プレス機にロボットアームを追加、焼結用カーボンケースへの充填作業を自動化



熊本製造所

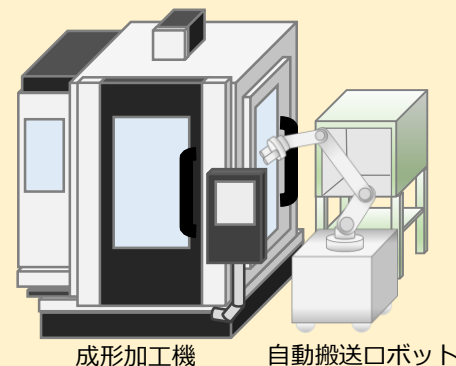
- 部品どりを最適化するCAD・CAMの自動ネスティングを本格導入
- 冶金工程の成形加工機に自動搬送ロボットを追加導入

岡山製造所

- 自動床洗浄ロボットを試験導入

秦野工場

- 研削加工作業に自動化ロボットを導入
- プラグ製作工程に自動ろう付機を導入



重要施策の初年度進捗と 2026年3月期以降の取り組み 海外事業の飛躍

中国

富士模具：販売拠点

初年度（2025年3月期）の進捗

東莞の新拠点を足掛かりに、光学機器関連の新規顧客開拓に成功、販売を拡大

2026年3月期以降の取り組み

さらなる知名度向上でNEV関連メーカーへの新規拡販強化

北米

初年度（2025年3月期）の進捗

展示会に初出展、市場調査を推進

2026年3月期以降の取り組み

北米での知名度向上を図り、潜在需要獲得のため新規拡販活動を継続

インド

初年度（2025年3月期）の進捗

事業再開に向け展示会に初出展、市場調査を強化
輸出ベースでの出荷額が過去3年間で大幅に増加

2026年3月期以降の取り組み

事業再開プロジェクトを始動

アセアン

Fujilloy Thailand：生産/販売拠点

Fujilloy Indonesia：生産/販売拠点

Fujilloy Malaysia：販売拠点

初年度（2025年3月期）の進捗

タイは、生産性が向上、輸送機器以外の製品群も拡張
インドネシアは、外資系企業との取引が拡大
マレーシアは、クアラルンプールの営業活動を強化

2026年3月期以降の取り組み

メインの自動車関連や半導体関連・電池関連の深耕
他業種もターゲットに外資系企業への拡販を推進

2027年3月期

目標海外売上比率：25%以上

2025年3月期 海外売上比率：19.5%

前期比0.8%UP

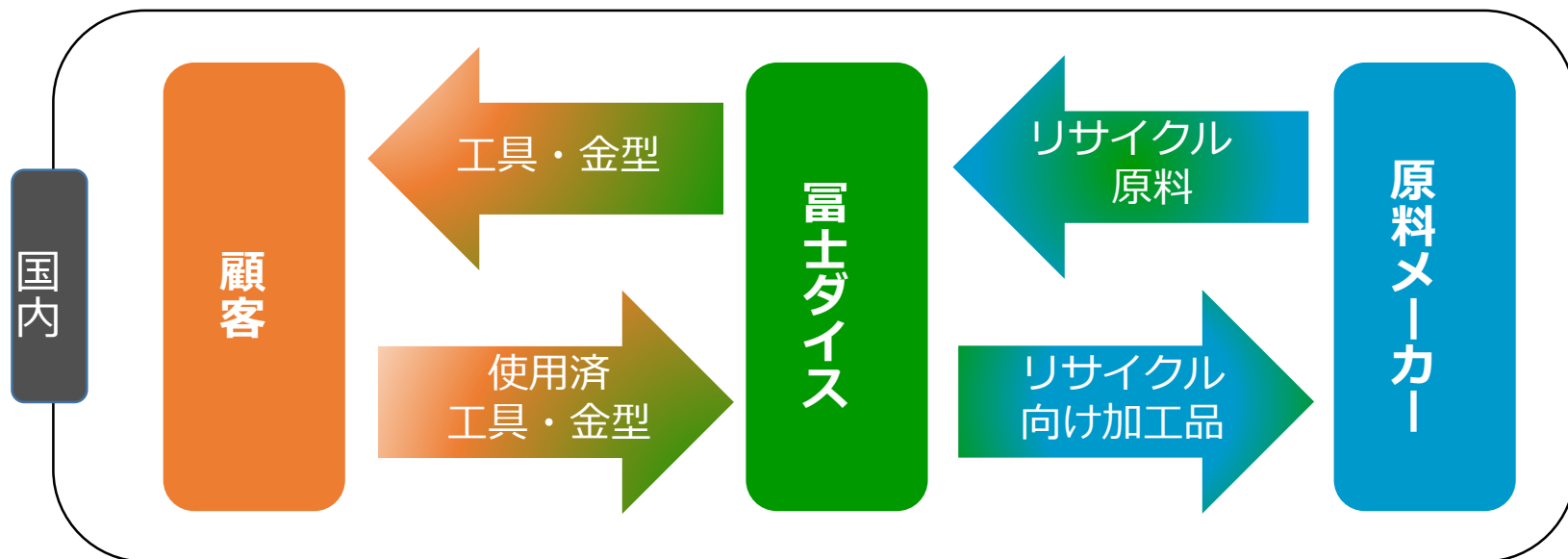
重要施策の初年度進捗と 2026年3月期以降の取り組み 新規事業の確立

初年度（2025年3月期）の進捗

- 新規事業組織を発足（2024年7月）
- 新規事業の早期実現に向けたM&A、業務提携の実施を検討
- 超硬耐摩耗工具・金型のリサイクル事業の立ち上げに向けて、スキームを検討

超硬耐摩耗工具・金型のリサイクル

- 顧客網を活用し、超硬耐摩耗工具・金型の国内循環型リサイクルの実現を目指す
- 限りあるレアメタルを有効活用し、原料調達リスクを低減



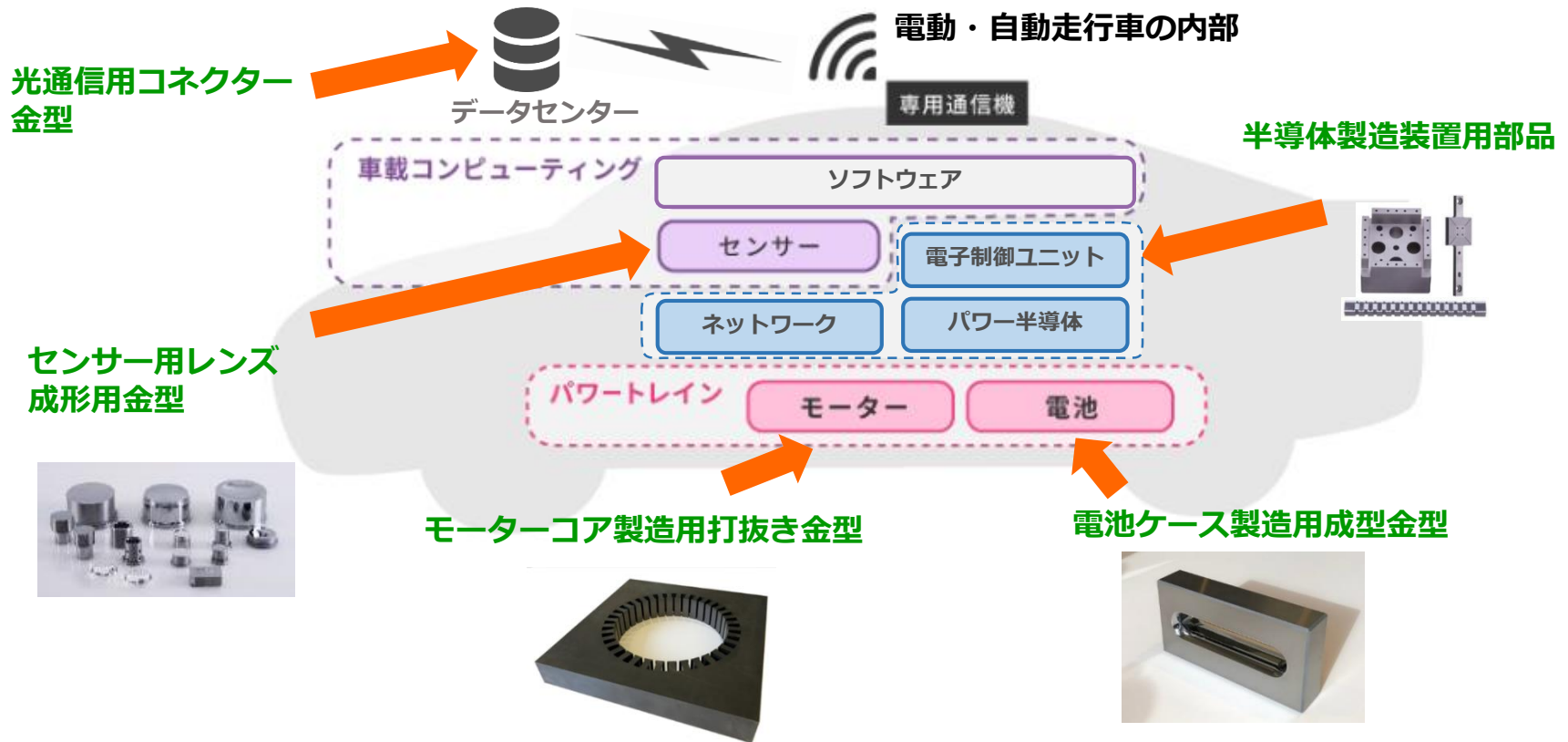
03

成長分野に向けた製品開発の取り組み

成長分野と富士ダイスの関係

次世代自動車・半導体・光通信

自動運転向けセンサー用光学部品、次世代光通信分野、半導体製造装置分野に、
当社の工具・金型・素材が貢献



電動・自動走行車の内部 図の引用元：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のホームページ

成長分野に向けた製品開発

当社のコア技術である粉末冶金技術と超精密加工技術を軸に
成長分野に向けた製品を開発・市場投入

分 野	概 要	進捗状況	販売時期(計画)		
			25年3月期	26年3月期	27年3月期
次世代 エネルギー	① 水素発生用触媒・ 電極(PME) ② 金属空気二次電池用 触媒・電極(PME)	① 客先評価中	点線矢印	実線矢印	二重線矢印
		② 量産化検討中	点線矢印	実線矢印	二重線矢印
次世代 光通信	光通信用コネクタ 金型	客先評価中	点線矢印	実線矢印	二重線矢印
次世代 自動車	① 高熱膨張レンズ用金型 (TR合金) ラインナップ化	① 新材料開発中	点線矢印	実線矢印	二重線矢印
	② 放電加工対応超硬合金 (VG51)	② 販売中	実線矢印	二重線矢印	二重線矢印
	③ アモルファス合金 に適した超硬合金	③ 新材料開発中	点線矢印	実線矢印	二重線矢印
省資源	① 省タングステン・ コバルト合金	① ラインナップ化 客先評価中 (特許取得済)	実線矢印	二重線矢印	二重線矢印
	② 超硬合金の新製造 プロセスの検討	② 開発中	点線矢印	実線矢印	二重線矢印

点線矢印 : 開発中
 実線矢印 : 客先評価中
 二重線矢印 : 販売中

粉末冶金技術

高度な粉末冶金技術
による新材料開発



超精密加工技術

様々なニーズに応える
加工技術の探求

成長分野に向けた製品開発～次世代エネルギー～

水素発生用触媒・電極(PME)

需要の拡大が予想されるグリーン水素製造装置向けニッケル製電極(PME※)を開発

※Powder Metallurgy Electrode (触媒を含有した電極)

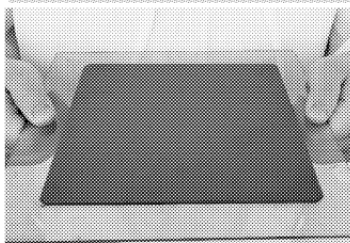
市場投入フェーズ

開発開始

客先評価中

- 水の電気分解による水素製造の際、必要な消費電力を従来比20%削減。
- 触媒はカルシウム、銅及び鉄の酸化物（貴金属フリー）。

富士ダイスがニッケル電極



富士ダイスが開発したグリーン水素向け電極

装置向け27年商品化

国内でカーボンニュートラル(CN)、温室効果ガス(GHG)排出量を削減(削減)に向けた投資が加速している。化石燃料から脱炭素のエネルギーへの転換が見込まれる中、グリーン水素はCNの有力技術になると目されている。

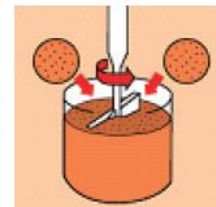
国内でカーボンニュートラル(CN)、温室効果ガス(GHG)排出量を削減(削減)に向けた投資が加速している。化石燃料から脱炭素のエネルギーへの転換が見込まれる中、グリーン水素はCNの有力技術になると目されている。

富士ダイスは、水素を製造する際に電圧を従来比20%削減するニッケル製の電極を開発した。電力の低減を抑えられ、また貴金属を使用しないために環境負荷が低いという。主力事業の超硬合金製造の粉末冶金技術などを応用した、再生可能エネルギー電力を使った水の電気分解によるグリーン水素の製造装置向けに、2027年までの商品化を目指す。

グリーン水素 電力抑え製造



超高压合成技術
(触媒開発)

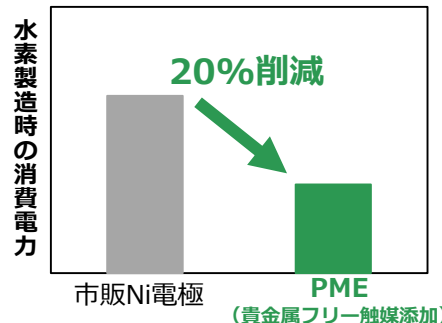


粉末冶金技術
(電極化)



高性能電極
(PME)

PMEの使用で、水素製造に必要な消費電力を削減



【2024年11月5日付「日刊工業新聞」】

成長分野に向けた製品開発～次世代光通信～

光通信用向け高精度コネクタ金型・ガラス成型用金型

「ファイバーアレイ」「マイクロレンズアレイ」などの超精密コネクタ金型や、フォトリソ用ガラス成型用金型を開発

市場投入フェーズ

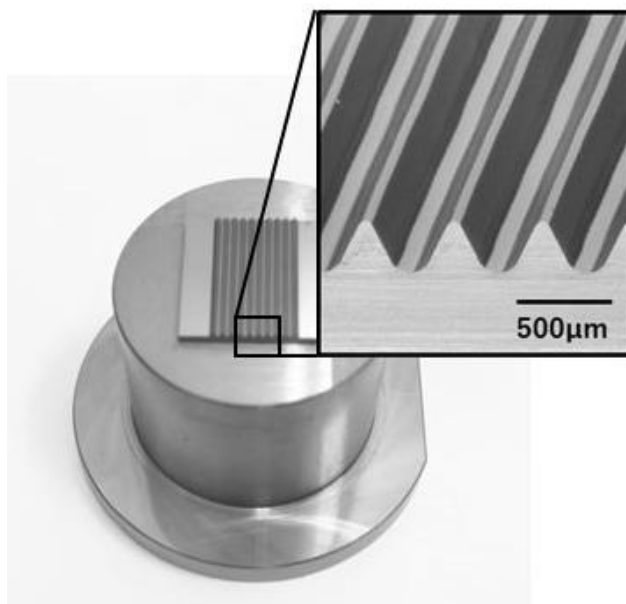
開発開始

客先評価中

- 最先端の超精密加工技術により寸法精度 $0.1\mu\text{m}$ 以下※¹の「ファイバーアレイ」「マイクロレンズアレイ」などの金型製作が可能
- 高精度測定機により超精密・微細加工後の品質保証が可能

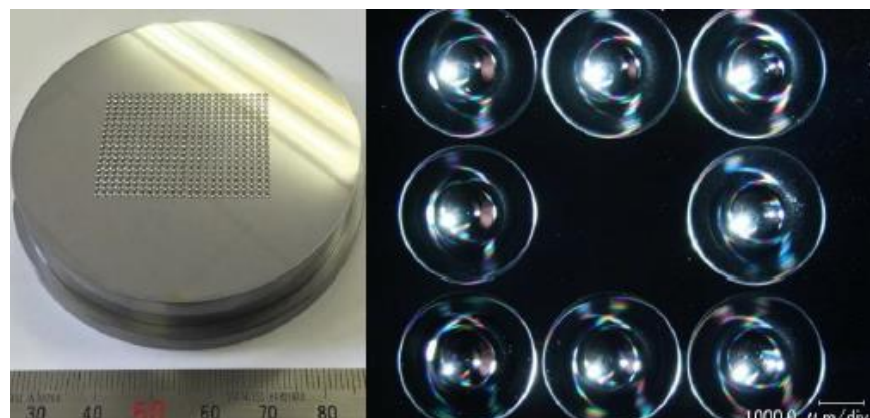
※¹ 寸法精度 $0.1\mu\text{m}$ とは？

髪の毛の1000分の1のズレも許されないレベルの加工精度



ファイバーアレイ※²

※² 光ファイバーと光学部品を接続するコネクタ



マイクロレンズアレイ

ガラス成型用の金型

成長分野に向けた製品開発～次世代自動車～

アモルファス合金向けの打抜き金型

アモルファス合金の打抜き金型に最適な超硬素材を開発中

市場投入フェーズ

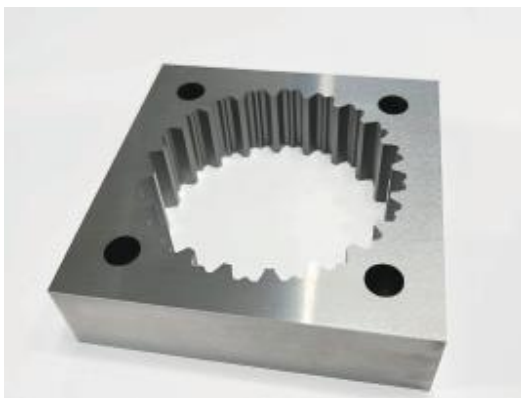
開発開始

新材料開発中

- 電気自動車（EV）など駆動用モーターの小型化・効率化が求められている。
- 現在は「電磁鋼板」がモータの心臓部分「モーターコア」に使用されているが、次世代のモーターコア材料として期待されているのが「アモルファス合金」。
- アモルファス合金は従来の電磁鋼板に対し4～5倍の硬さ、引張強度を有する。
- モーターコア打抜きにおいて、高耐久性を有した超硬合金は見当たらない。



アモルファス合金打抜き金型用超硬合金を開発中

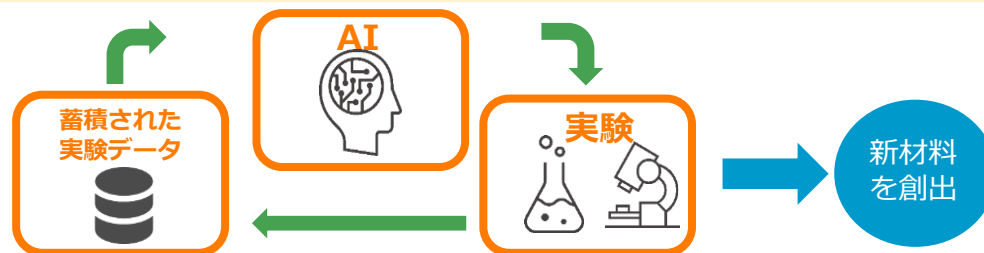


最終製品例：モーターコア



成長分野に向けた技術開発～新材料開発・共同研究・知財戦略～

マテリアルズ・インフォマティクス（MI）を用いた新材料の研究開発
社内に蓄積された膨大な実験データベースをMI技術により分析し、材料開発の効率化を図る



大学などの研究機関や加工機メーカーとの加工技術の研究
次世代加工技術として、レーザーや超音波援用加工等、研削、切削及び電気加工以外の探求へ

- 2025年4月 慶應義塾大学
理工学部機械工学科の閻研究室と
共同研究契約を締結
主に硬質材料の超精密加工技術
の探求をスタート



当社の知的財産活動 / 知的財産基本方針

①権利取得の促進 ②自社権利の正当行使及び他社権利の尊重 ③知的財産教育 の3本柱

成長分野に向けた技術開発～研究活動、受賞～

東北大学大学院の研究活動に参画

2022年より、東北大学大学院 硬質材料環境調和設計学講座（寄付講座）に参画

「日本の硬質材料の中核をなす基礎研究、人材育成、省資源技術研究および産学連携の実施」に賛同

学会への参加、専門誌への論文寄稿

粉末冶金や精密加工等、複数の学会に参加し、専門誌への論文寄稿も積極的に実施

- 粉末冶金の国際学会「WORLD PM2024 YOKOHAMA（2024年粉末冶金国際会議）」
セミナー形式とポスターによる学術発表
- 2024年度精密工学会秋季大会において「ガラス成形用高熱膨張新硬質材料の開発および超精密加工技術の確立」を講演
- 2025年度精密工学会春季大会にて企業ブース出展
- 粉体および粉末冶金9月号に「WC-Co基超微粒超硬合金の基礎研究と製品開発」
「高熱膨張ガラス成形金型用新硬質材料の開発」2本の論文を寄稿
- ツールエンジニア3月号に「モータコアの金型向け超硬合金」を寄稿

受賞

2025年3月期、2026年3月期において、複数の賞を受賞

- 2024年度（第8回）精密工学会ものづくり賞「最優秀賞」
- 粉体粉末冶金協会「2024年度新技術・新製品賞（優秀賞）」表彰式2025年5月28日

04

2026年3月期 業績予想

2026年3月期 業績見通し

- 売上高は自動車部品関連金型の回復に伴う需要増、新拠点の東莞を足掛かりにした中国での販売拡大を見込む。
- 営業利益は人件費増加や原材料費の増加はあるが、売上高の増加により対前年比22.9%増の6.0億円を見込む。

営業利益
6.0億円
(前期比22.9%増)

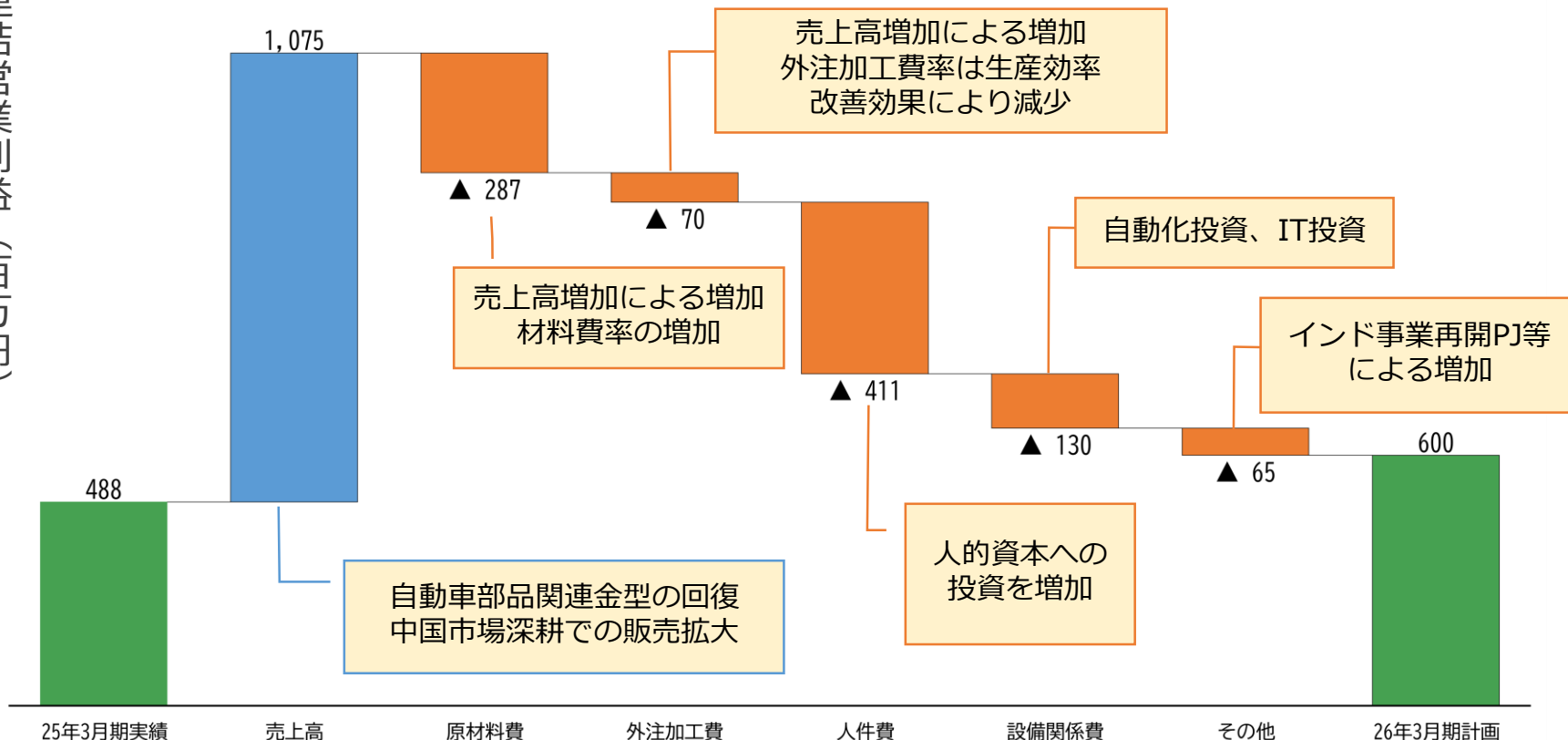
(単位：百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 2Q業績予想	2026年3月期 業績予想	期末における 前期増減	期末における 前期増減率
売上高	16,595	8,720	17,670	1,075	6.5%
営業利益	488	220	600	112	22.9%
(営業利益率)	(2.9%)	(2.5%)	(3.3%)	(0.4%)	
経常利益	603	270	700	97	16.1%
(経常利益率)	(3.6%)	(3.0%)	(3.9%)	(0.3%)	
親会社株主に帰属する 四半期／当期純利益	426	170	460	34	8.0%
1株当たり 当期純利益	21.42円	8.55円	23.12円	1.70円	-
一株当たり配当額	40.0円	-	40.0円	0.0円	-
DOE	3.8%	-	3.9%	0.1%	-

2026年3月期 業績見通し増減グラフ

営業利益：+112百万円

(単位：百万円/百万円未満 切り捨て)

連結営業利益
(百万円)



【2026年3月期 利益予想の前提条件】

- ①APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：375ドル/10kg
- ②為替：145円/米ドル

主要産業分類別状況（単体ベース、売上高）業績見通し（2026年3月期）

	売上高（億円）	輸送用機械	鉄鋼	非鉄金属・金属製品
		22/3期 23/3期 24/3期 25/3期 26/3期 計画	22/3期 23/3期 24/3期 25/3期 26/3期 計画	22/3期 23/3期 24/3期 25/3期 26/3期 計画
	製品イメージ	鍛造金型	圧延ロール	製缶工具
	事業概況	25/3期は、自動車部品メーカーの生産調整の影響を受け、徐々に回復するも目標は未達。 26/3期は、次世代自動車向けの開発案件の獲得による需要増を見込む。	25/3期は、海外向け熱間圧延ロールが堅調に推移したが、自動車生産減の影響を補えず。 26/3期は、自動車生産の回復や、海外鉄鋼向け販売、新規顧客への拡販により回復を見込む。	25/3期は海外向け溝付ロールが顧客での在庫調整により大幅減。 26/3期は溝付ロールの在庫消化が進み通常化、耐アルミ関係製品の需要増を見込む。

主要産業分類別状況（単体ベース、売上高）業績見通し（2025年3月期）

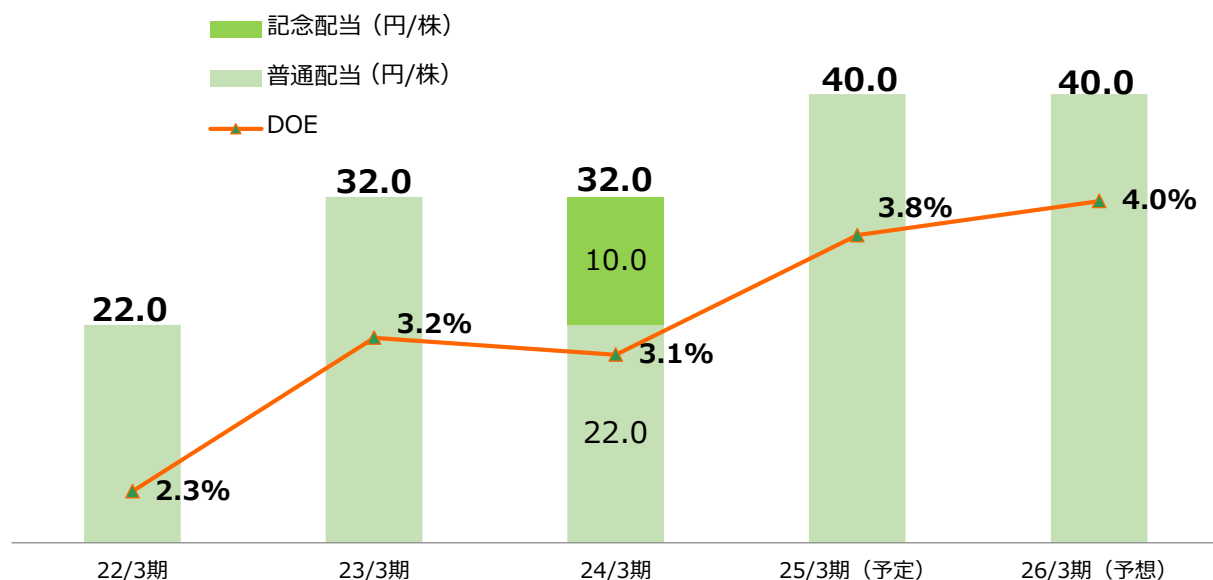
	生産・業務用機械 売上高（億円） 22/3期 23/3期 24/3期 25/3期 26/3期 17.4 20.5 20.4 21.2 21.2 計画22.1 達成率96% 22/3期 23/3期 24/3期 25/3期 26/3期 計画	電機・電子部品 22/3期 23/3期 24/3期 25/3期 26/3期 17.1 18.3 14.4 14.9 15.4 計画14.2 達成率105% 22/3期 23/3期 24/3期 25/3期 26/3期 計画	金型・工具向け素材 22/3期 23/3期 24/3期 25/3期 26/3期 24.8 23.1 22.9 25.2 27.9 計画24.6 達成率102% 22/3期 23/3期 24/3期 25/3期 26/3期 計画
製品イメージ	 光学素子成型用金型	 電池向け金型	 金型・工具向け素材
事業概況	25/3期は、半導体製造装置向けや光学素子向けの販売が好調に推移するも目標は未達。 26/3期は、半導体製造装置向けは軟調との予想だが、光学素子向けは撮像向け新製品の引き合い継続で堅調に推移する見込み。	25/3期は、半導体向け製品が低調だったが、前期需要減の車載用電池向け製品の需要が拡大。 26/3期は、車載用電池向け製品は前期比減の予想だが、AIデータセンター電子部品向け製品の需要を見込む。	25/3期は、EV関連向けは低調に推移したが、海外向けの超硬素材販売が好調。 26/3期は、2年目を迎える東莞拠点を足掛かりに中国市場の深耕などにより、海外向けの超硬素材販売拡大を見込む。

2026年3月期 株主還元・配当

2026年3月期は1株当たり40円を計画

年間配当金
40円

- 2027年3月期までの中期経営計画期間中は、配当の基準を従来の配当性向から株主資本配当率（DOE）に変更するとともにDOEの目標値を4%目途に変更
- 2026年3月期の配当は前期の配当と同額の一株当たり40円を計画



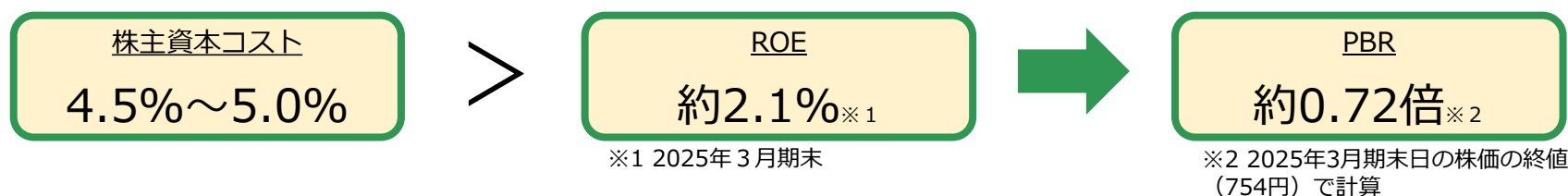
※2025年3月期末配当は、当社第69回定時株主総会の承認を得た場合の1株当たりの配当金となります。

資本コストや株価を意識した経営の実現

1. 現状分析と課題

- ▶ 当社の株主資本コストは4.5～5.0%程度と認識（CAPMで計算）
- ▶ ROEは原材料高騰等による利益減少により依然として資本コストを下回っている状況
- ▶ 積極的なIR活動や株主還元の強化等に努めた結果、株価水準が向上し、PBRは若干改善したものの、依然として1倍割れの状況

➡ 収益性の改善が最重要課題



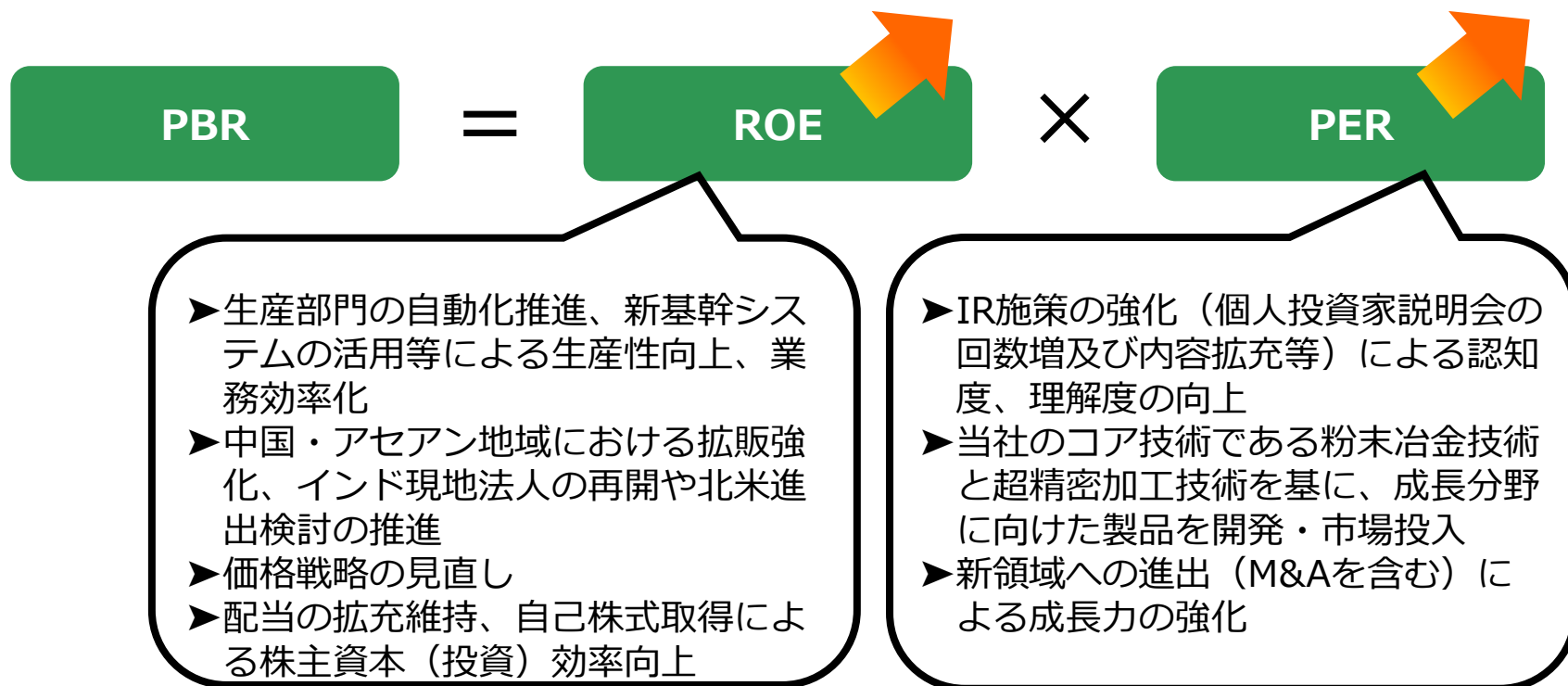
指標	目標（2027年3月期）	2024年3月期	2025年3月期
ROE	7.0%以上	3.5%	➡ 2.1%
PBR	1倍以上	約0.66倍	➡ 約0.72倍
DOE	4%目途	2.1% ※3	➡ 3.8%
参考/株価推移 (期末日終値)	—	687円	➡ 754円

※3 普通配当の金額で計算
記念増配（一株当たり10円）を含めるとDOEは3.1%。

今後の対策について

2. 今後の取組みの方針

- ▶「中期経営計画2026」に沿って「変化に対応できる企業体質への転換」を果たし、収益性や成長力を向上させる。



中期経営計画2026 連結数値目標

【2027年3月期における連結数値目標】

連結売上高
200億円

営業利益
20億円

経常利益率
10.5%
(経常利益 21億円)

ROE
7.0%

	2025年3月期 実績	2026年3月期 業績予想	2027年3月期 目標
売上高	165億円	176億円	200億円
営業利益	4.8億円	6.0億円	20.0億円
経常利益	6.0億円	7.0億円	21.0億円
経常利益率	3.6%	3.9%	10.5%
当期純利益	4.2億円	4.6億円	15.0億円
ROE	2.1%	2.2%	7.0%

(2027年3月期の目標値は、米国関税政策による影響などが不透明なため変更なし)

05

APPENDIX

会社概要（2024年11月現在）

商号	富士ダイス株式会社
所在地	東京都大田区下丸子二丁目17番10号
資本金	164百万円
代表者	代表取締役社長 春田 善和
創業	1949年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：6167 [業種：機械]） 2015年6月東証二部に上場、2017年4月東証一部に市場変更
事業目的	超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売
連結子会社	新和ダイス株式会社 富士シャフト株式会社 FUJILLOY (THAILAND) CO., LTD. 富士模具貿易（上海）有限公司 PT. FUJILLOY INDONESIA FUJILLOY INDIA PRIVATE LIMITED FUJILLOY MALAYSIA SDN. BHD.
従業員数	1,106名（2024年3月期末時点、連結）



当社の特長

超硬耐摩耗工具市場で**トップシェア**

国内超硬耐摩耗工具業界では当社は長期に亘り、トップシェアを堅持
多品種少量の高付加価値製品の販売が主で、販売価格は安定して推移

業界シェア
30%以上

長期的成長を担う高い**素材開発力×加工技術力**

粉末冶金技術を活かし、市場ニーズに応える新材料の開発力
新鋭設備研究と加工方法の最適化による匠の技と最新テクノロジーの融合

コア技術
・粉末冶金技術
・超精密加工技術

開発力-技術力-営業力が競争力の源泉

お客さまの個別ニーズをカスタマイズできる直販体制
幅広い業種との安定かつ多くのお客さまとの取引実績
設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査までの一貫生産体制

取引社数
約3,000社
(グループ連結)

財務基盤：黒字経営を継続し、高い**自己資本比率**を維持

ネットキャッシュ 7,917百万円
フリーキャッシュフロー 951百万円

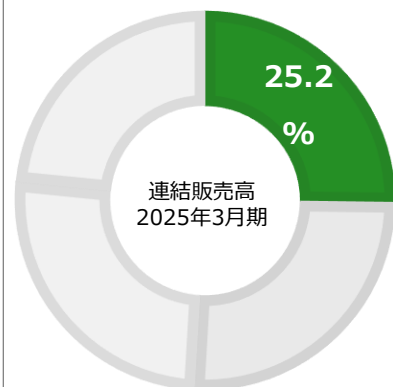
自己資本比率
81.0%
(2025年3月末時点)

(2025年3月末)

事業内容 製品区分

■ 超硬合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造に特化

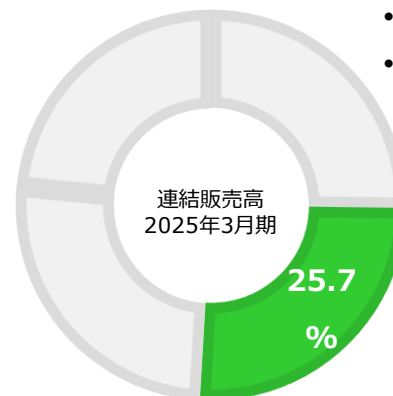
超硬製工具類



- ・ ダイス、プラグ
- ・ 溝付きプラグ
- ・ 熱間圧延ロール
- ・ 超高压発生用工具 等



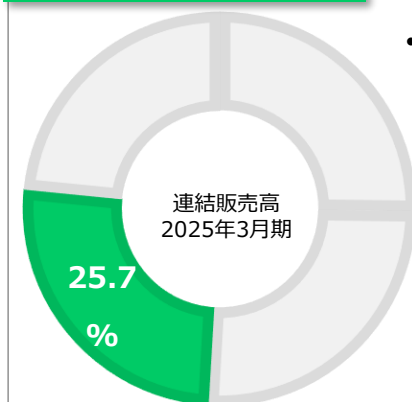
超硬製金型類



- ・ 自動車部品製造用
- ・ 製缶用
- ・ 電池関連用 等



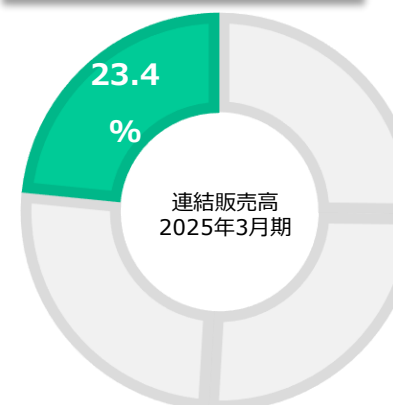
その他の超硬製品



- ・ 超硬合金素材
- ・ 半導体製造装置用部品 等



超硬以外

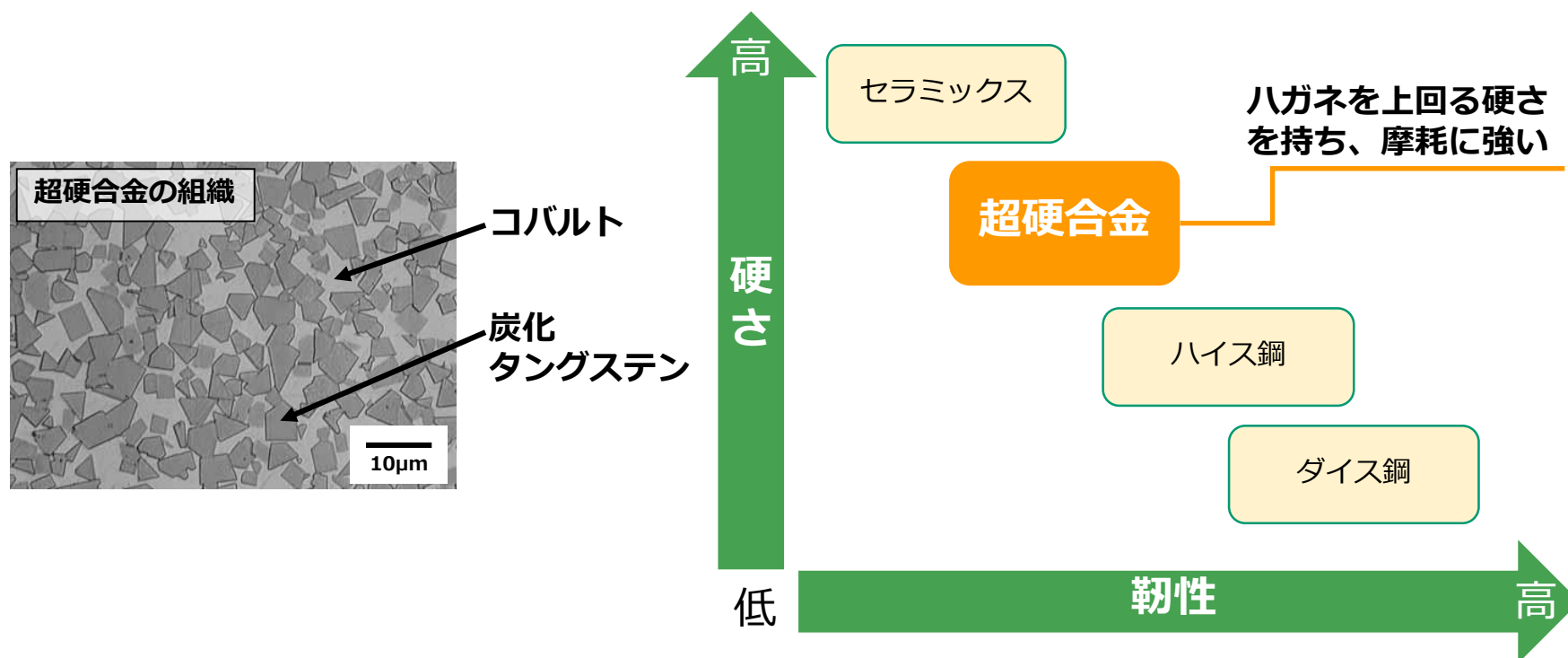


- ・ 鋼製品
- ・ KF2製品
- ・ セラミックス製品
- ・ ダイヤモンド研削砥石
- ・ FHR製品
- ・ 銅タン
- ・ NFメタル
- ・ 引抜鋼管 等



超硬合金とは

- 炭化タングステンなどの**硬質炭化物**とコバルトなどの**金属**を組み合わせた**金属材料**
- ステンレスや鋼鉄を凌ぐ**硬さ**を誇り、**圧縮強さ**、**耐摩耗性**に優れる
- **変形しにくく**、高い精度が求められる**金型**や**工具の材料**として適している
- 金属の粉末を型に入れ圧縮して成型し、融点より低い温度で長時間焼いて固める「**粉末冶金法**」で製造される



モノづくりを土台から支える「生命工具」

自動車・飛行機など 輸送機器



エンジンをはじめ、さまざまな部品の製造ラインに使用

飲料缶・食缶



超硬合金の高精度な製缶金型で高いシェア

カメラレンズ



監視カメラや一眼レフカメラレンズなどの製造用に使用

エアコン・スマートフォン など家電



エアコン・スマートフォンなどの家電、鉄道架線・電線などインフラ設備の他、幅広く使用

鉄道架線・電線など インフラ設備



人工ダイヤモンド

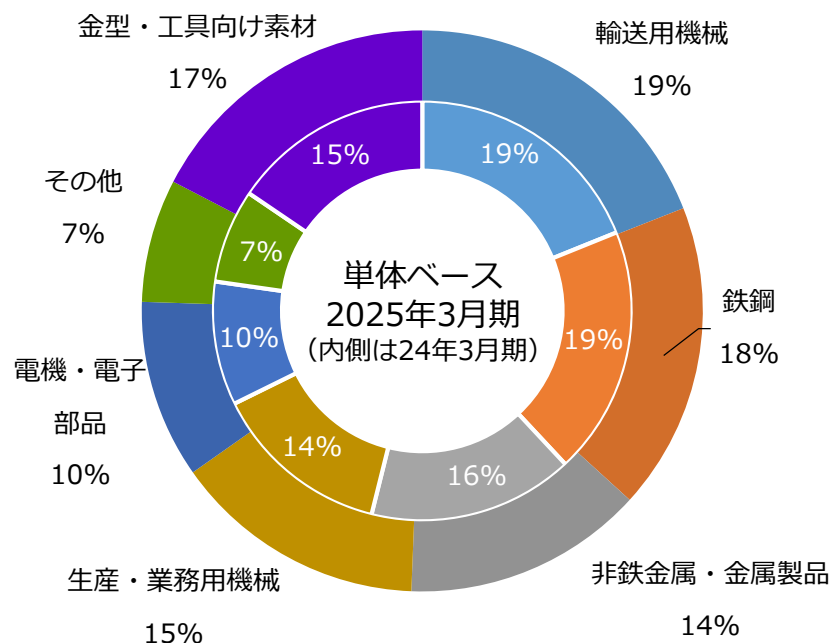


人工ダイヤモンドの製造や新たな素材の開発などに使用

受注生産・直販体制、取引先は約3千社に上る

少量多品種の顧客毎の**カスタムメイド**の受注生産・直接販売を行う
顧客との強固なネットワークにより、取引社数は**約3千社**、業種も幅広い
特定の**業界動向**に影響されない**安定性**が強み

【顧客産業分類区分売上構成(%)】



【営業・生産拠点（2025年3月末時点）】

【国内】

●生産・営業拠点	5ヶ所
●生産拠点	2ヶ所
●営業拠点	5ヶ所

【海外】

●生産・営業拠点	2ヶ国
タイ・インドネシア	
●営業拠点	3ヶ国
中国・マレーシア・インド（休眠中）	

一貫生産体制により様々なオーダーに対応

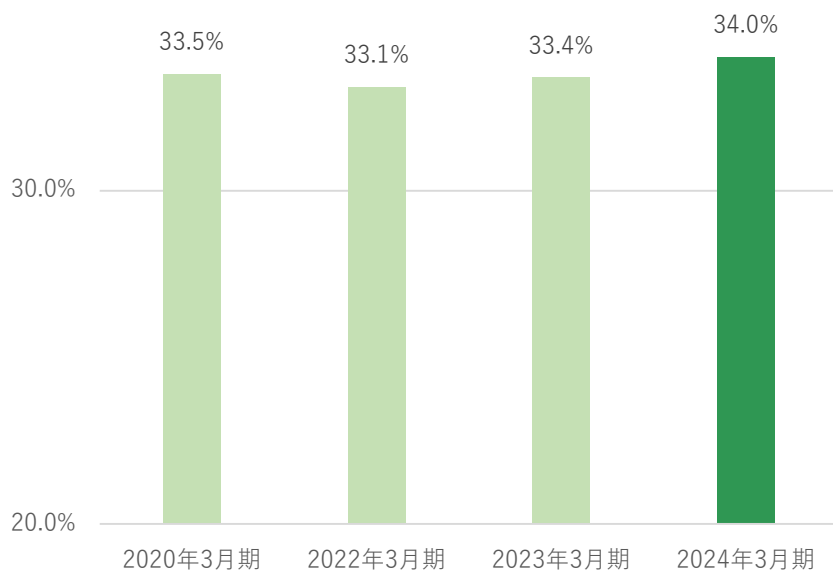
- 設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査まで一貫した受注生産体制
- 高度な粉末冶金技術と加工技術
- 様々なオーダーに対し柔軟に対応が可能（多品種・少量生産）



耐摩耗工具専門国内トップメーカー

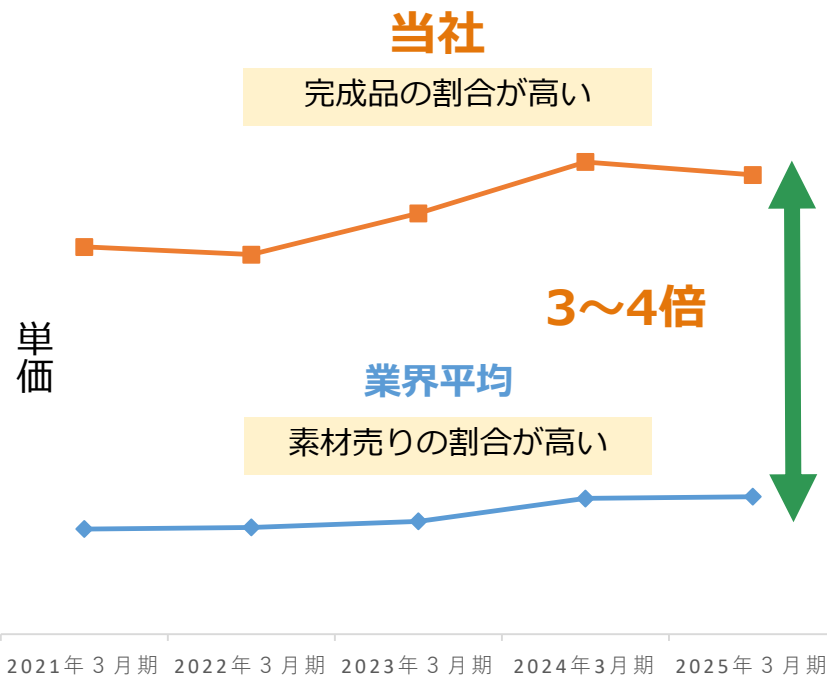
国内超硬耐摩耗工具業界で当社は**長期に亘り**、**トップシェア（30%超）**を堅持
少量多品種の**高付加価値製品**の販売が主で、販売価格は**安定して推移**

超硬耐摩耗工具・国内出荷額シェアの推移



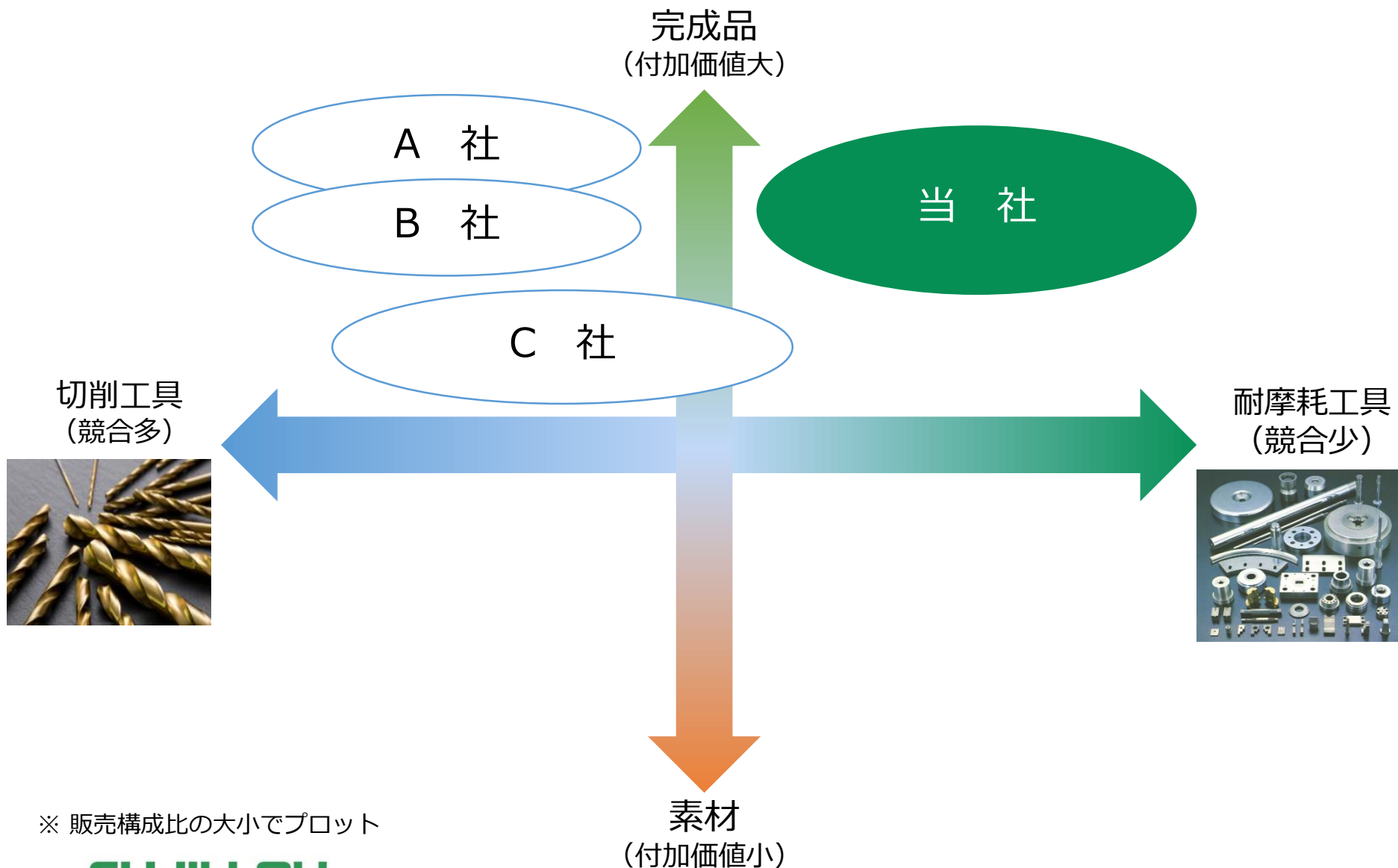
※2021年3月期は新型コロナウイルスの影響が大きいため除外

製品の平均単価の推移



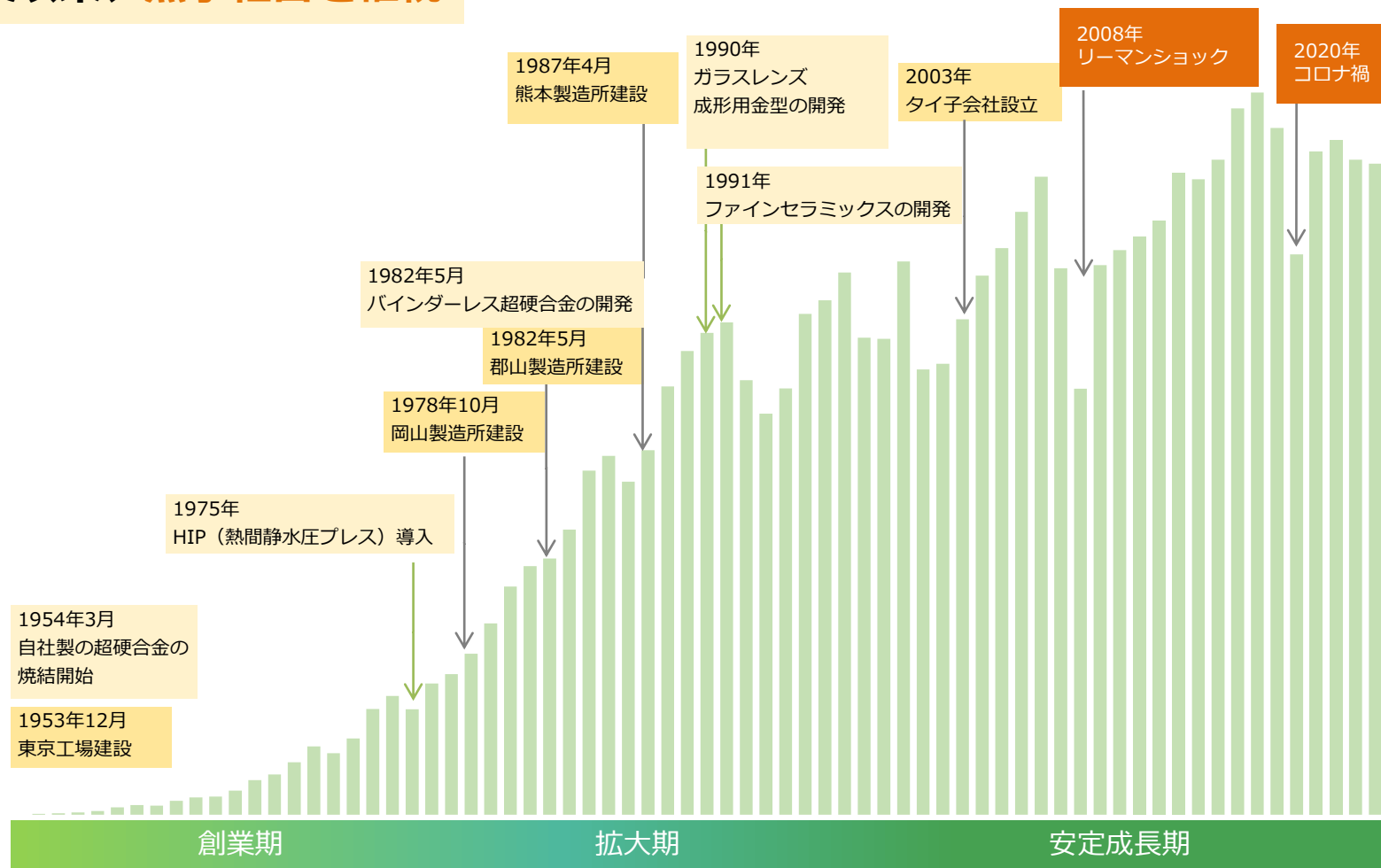
出所：日本機械工具工業会

工具業界 ポジショニングマップ（上場企業）



主な沿革と売上高推移

創業以来、黒字経営を継続



(注) 2012年度以降は連結売上高

代表的な製品例

引抜・押出・圧延加工をする工具

輸送用機械、建築材料やインフラ関連の設備等へ使用

当社製品



ダイス・プラグ



ロール

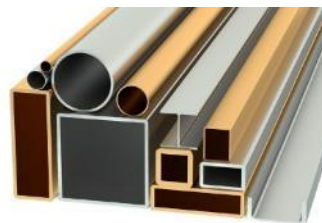
成形部材



パイプ



線材



異形管

最終製品例



エアコンなどの家電



飛行機などの輸送機器



鉄道架線・電線など
インフラ設備

代表的な製品例

飲料缶・一般食缶を製造する工具・金型

アルコール飲料や清涼飲料等の飲料缶を作る金型

光学素子を製造する金型

一眼レフ・通信用・監視カメラ・自動運転用カメラセンサーのレンズを生産する金型

当社製品



製缶工具

最終製品例



飲料缶・一般食缶

当社製品



ガラスレンズ成形用金型

最終製品例



監視カメラ



カメラレンズ



自動運転用カメラセンサー

代表的な製品例

鍛造用工具・金型

二輪車や四輪車、各種製造機械等の部品を作る金型

高圧工具

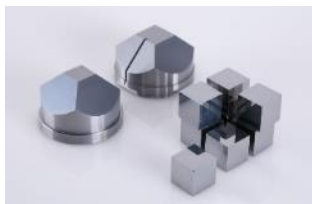
人工ダイヤモンドの製造、新たな素材の開発、地球の内部環境研究に用いる工具

当社製品



鍛造金型

当社製品



高圧工具

最終製品例



自動車・各種機械用部品

最終製品例



人工ダイヤモンド・
新素材開発

地球物理学研究

富士ダイスの企業理念・大切にしている価値観・長期ビジョン

企業理念

- ◆ 事業を通じて広く社会に貢献し、幸せな人を育てる
- ◆ 人間尊重、人間中心の経営

基本的な考え方（私たちが大切にしている価値観）

- 報恩感謝
- 和
- 創造と革新
- 誠実
- 質実剛健

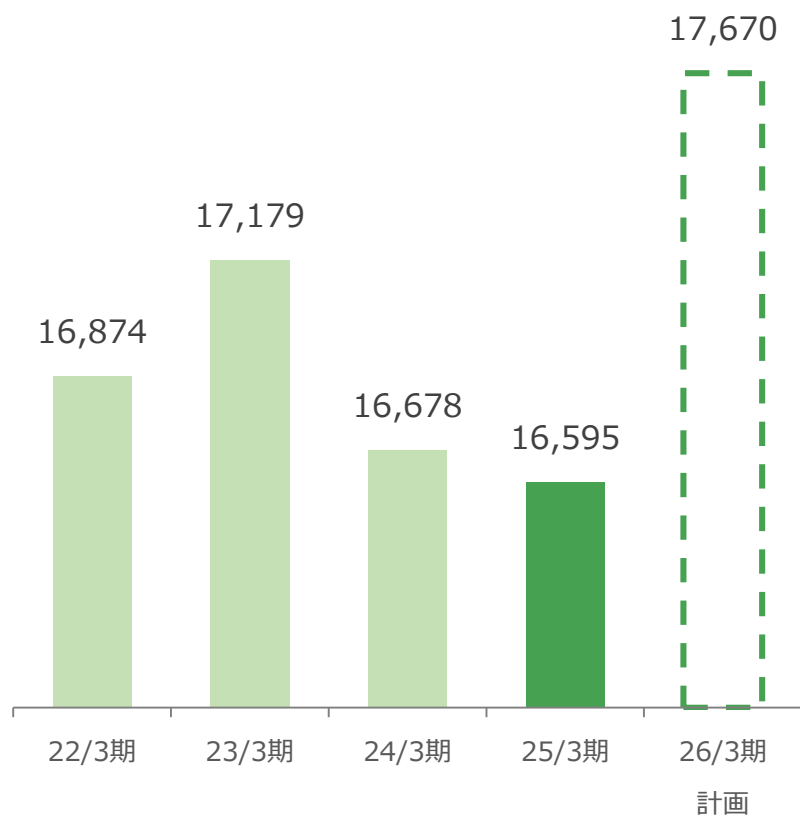
長期ビジョン

1. 世界のものづくり界のリーディングカンパニー
2. 品性ある企業グループ並びに企業人

業績の推移 1/3

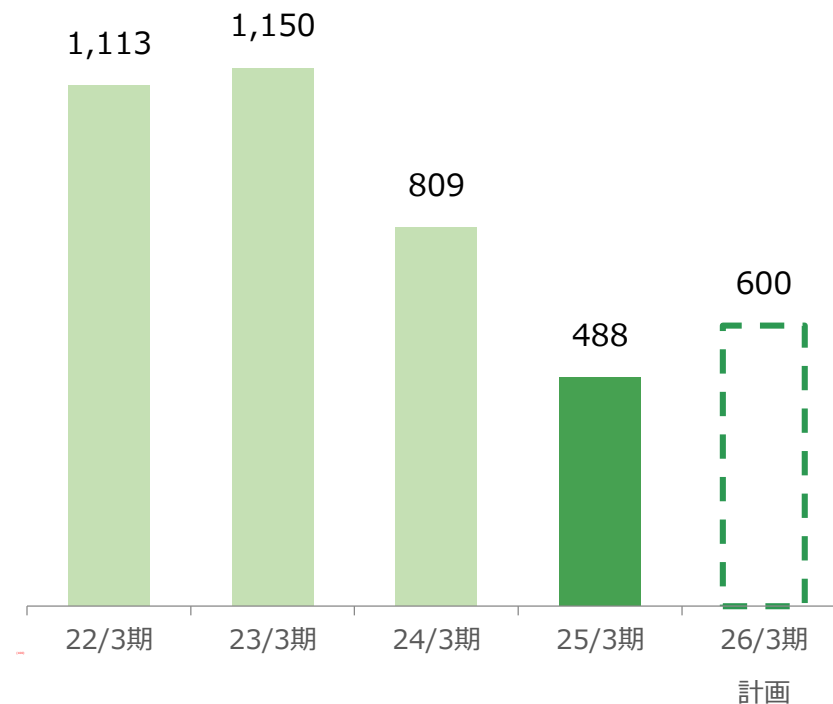
売上高

(百万円)



営業利益

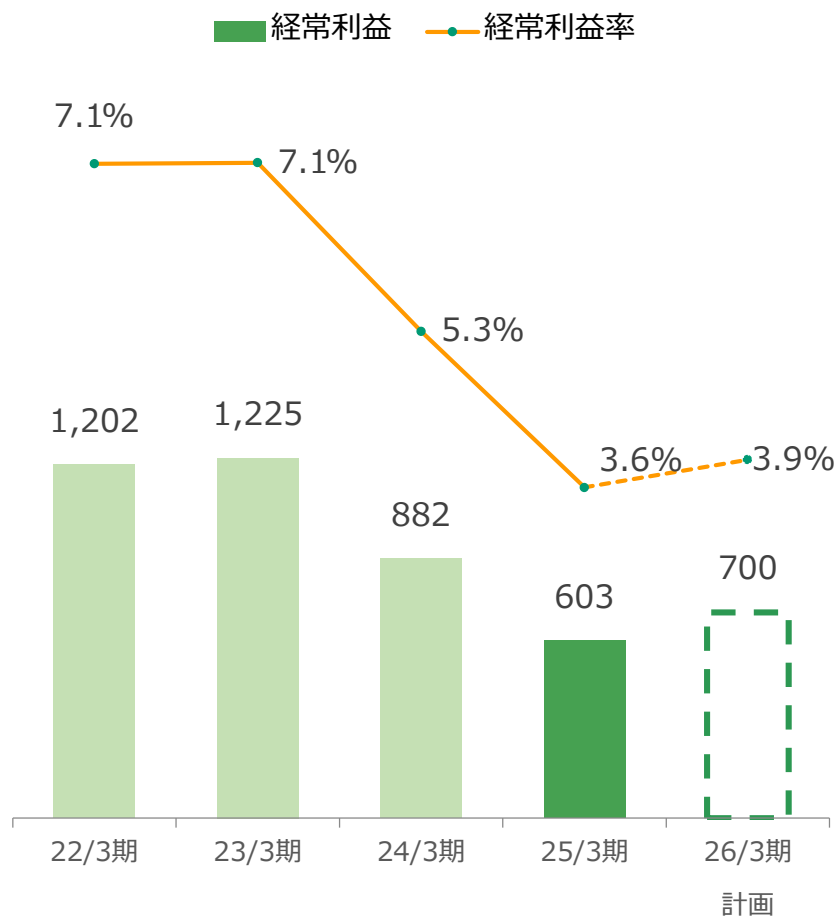
(百万円)



業績の推移 2/3

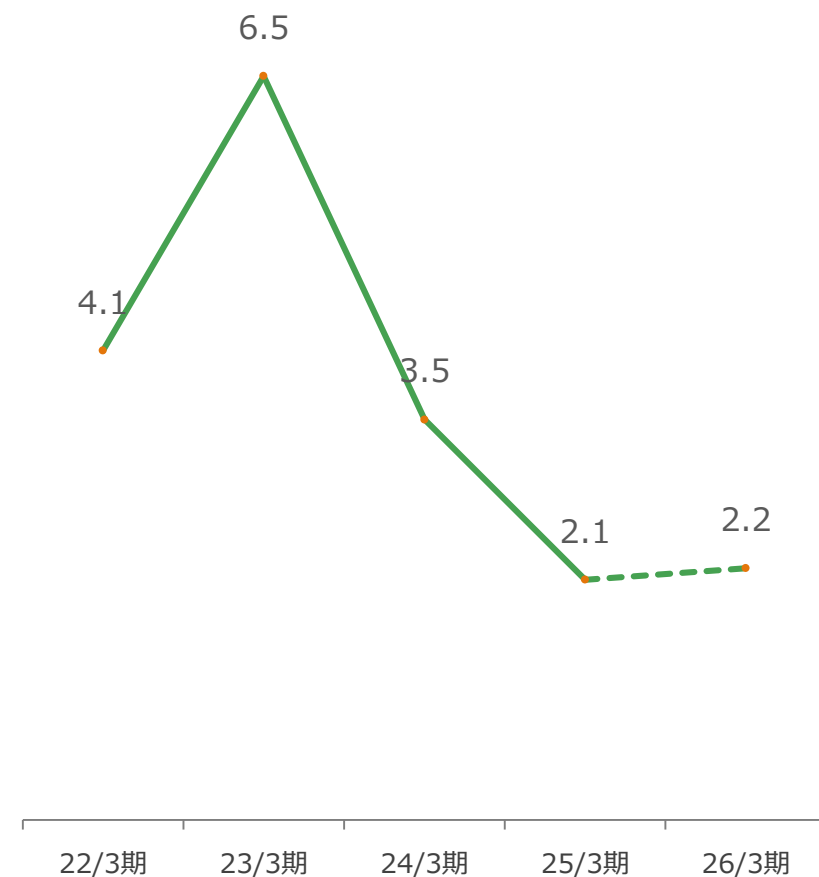
経常利益

(百万円)



ROE

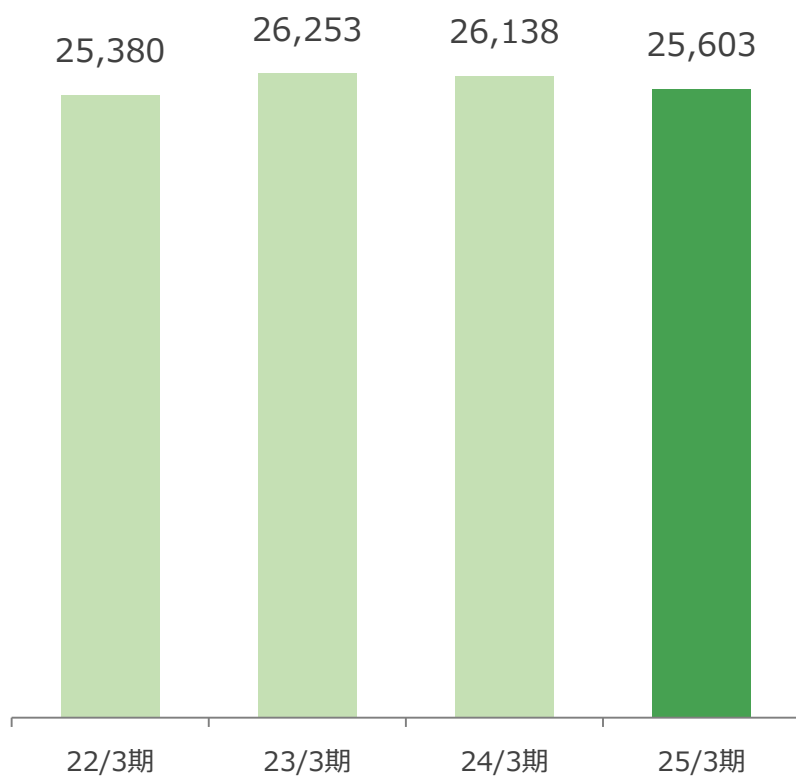
(%)



業績の推移 3/3

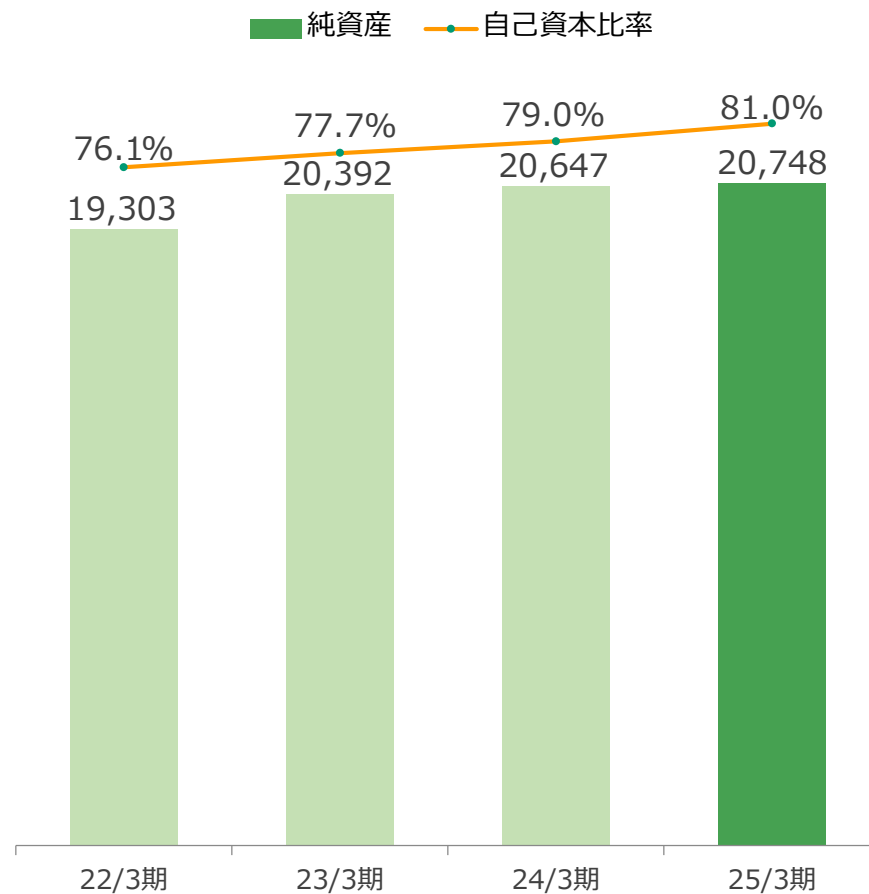
総資産

(百万円)



純資産

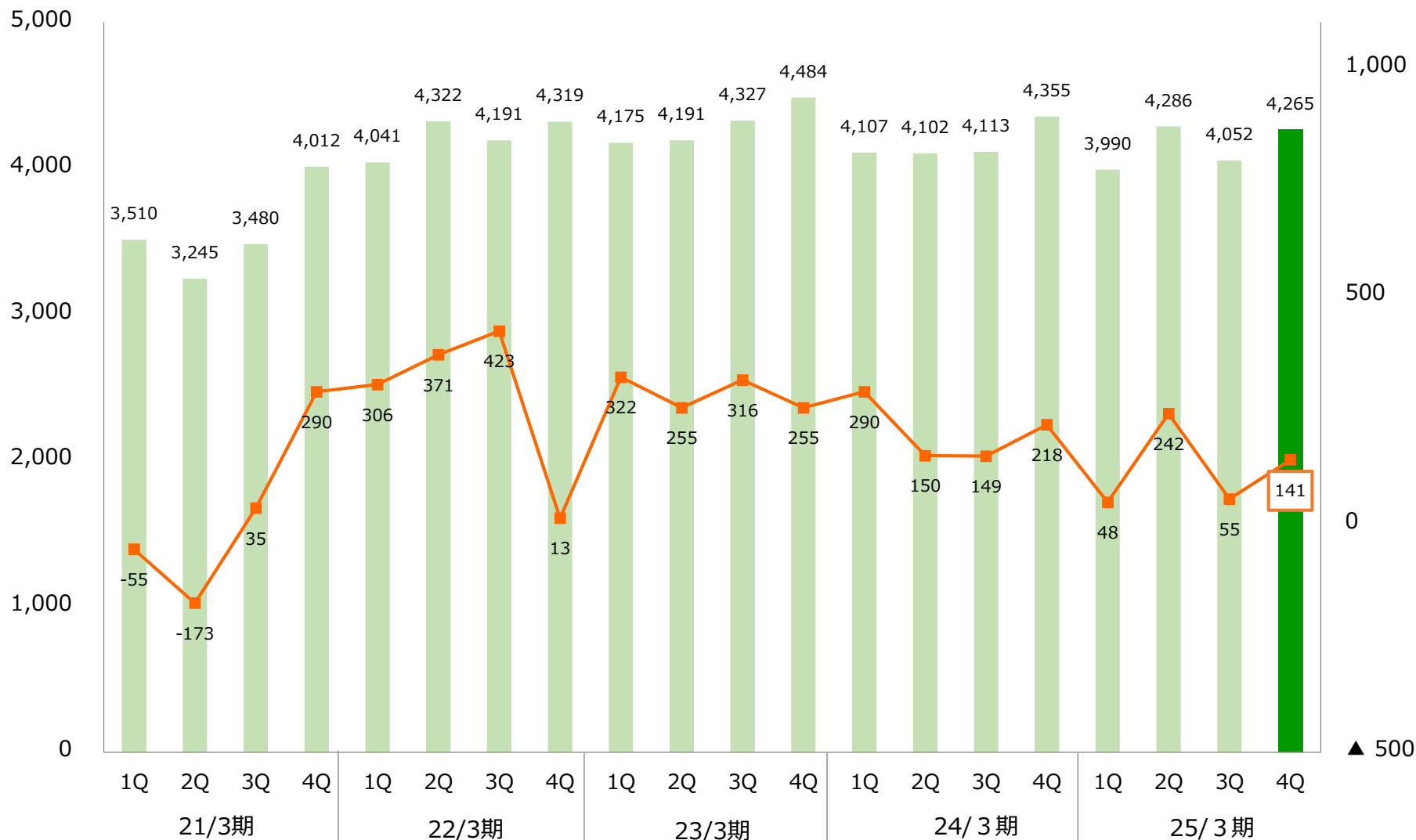
(百万円)



連結四半期業績推移

売上高 営業利益

(単位：百万円)



免責事項について

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記述されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性（市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等）が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。